



農の暮らし ～自給自足社会に向けて～ 第12回

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてみてください。



岩木山麓しらとり農場 白取 克之・潤子

私たちは青森県弘前市の岩木山麓で自然農を営んでいます。冬は2.5mもの雪が積もるので、道路から家まで「かんじき」をはいて雪の中を歩かなくてはならないほどで、農業はできません。夏の間は元気に育った野菜をしらとり農場の会員さんに毎週



直接お届けしています。以前は県外へも送っていましたが、フードマイレージのこと

を考え、悩んだ末に県内の直接配達できる方だけに届けています。野菜の他には、かわいいジャージー牛1頭、平飼ニワトリ50羽ほどを、おからや、野菜くず、草など、身の回りのもので飼っています。「小規模で完結している農場」を目指しています。

原野を開墾

小さな頃から野菜を育てるのがたまらなく好きだった私は、小学生の頃にはすでに家の花壇でハクサイやエンドウなどを有機栽培

で育てていました。将来の夢はずっと農家になることでした。大学の農学部を出たあとも農業研修をしながらさまざまな仕事を体験しました。ようやく8年前に結婚と同時に、耕作放棄されて原野の森になっていた土地に入植、就農することができました。もちろん道もなく、沢には橋もなかったため車は入れず、人すら入れないような藪でした。まずは笹を刈って道を作り、沢に橋をかけ、木を切るといふ本当の開墾から始めました。夫婦二人で大きな木の根を3本も抜けば1日が終わり、くたくたになって星空を見ながら帰る日が続きました。

無作から有機、自然農へ

開墾をした1年目は、ほとんどの野菜が育ちませんでした。唯一育った大豆も毎晩のように野ウサギに食べられて、なすすべもなく畑に立ち尽くす毎日でした。この時期に多くの方に助けられた感謝の思いは忘れられません。頭でっかちだった私は岩木山麓の自然に打ちのめされ、随分とらわれがはずれたように思います。

その後は草といっしょに野菜を育てる有機草生栽培で野菜もよく育ってくれるようになり、野ウ



サギ対策もうまくいくようになりました。一方でトラクターを使う

ことに、なんとなくひっかかるものを感じ続けていました。そして、今年の春先にトラクターが故障したのをきっかけに思い切ってトラクターを手放し、耕さない自然農に切り替えました。すると気分が本当にス

ツキリ！とても開放された気持ちになりました。冬の間に副業としてやっていた家庭教師もやめ、現在は自然農の専業だけで生活しています。収入は少ないのですが支出も少ないので十分にやっていけますし、何よりもストレスがありません。

不便は不快ではない

開墾をはじめて3年目、念願の我が家を半セルフビルドで畑に建てました。電気がなく、生まれてはじめての非電化生活でした



が、実はこれが意外ほど快適でした。飲み水は湧き水を汲みに行き、食器洗いもそ

こで。冬の雪の中、それに食器と水を汲んだポリタンクを乗せての往復も不便とは感じません。ランプ生活も早寝早起きになって実にいいものです。ちょうどうちの畑は竊穴住居跡も見つかった縄文遺跡の場所にあり、古代の人たちもここでこうやって生活していたんだなあと思うと心が安らかになります。

今は電話と同時に電気も引き、飲み水も湧き水から引いてきました。このちょうど1年間の非電化生活のおかげで、電気がなくてもやっていける自信もつきましたし、ガスがなくても大丈夫な生活をしています。蛇口から水が出たときの感動、電気が点いたときの感激は今も忘れられません。必要最小限の電気での生活を心がけようと思うようになりました。

種子自給率を上げたい

私にとっての農業は「仕事」ですが、お金を得るための手段という認識はほとんどありません。小学生のときに花壇で野菜を育てていた時と変わらない、楽しい毎日の生活そのものです。

そんな楽しい毎日の中で、考えていることは種子自給率についてです。現在スーパーなどで見かける野菜のほとんどは大手種苗会社が人為的に交配させて作ったF1品種という野菜です。その野菜からとれた種子を播いても同じものが育たないので、農家は毎年種を買わなくてはなりません。日本の食料自給率の低さは大きな問題として提起されていますが、その前段階の「農家の種子の自給率」は、もっと問題なのです。実際、数%あるかどうか・・・。

昔からその土地その土地で農家が代々種をつないできた種どりできる野菜を固定種と言います。現在うちの農場の野菜は、ほぼ100%固定種の野菜です。毎年自家採種していくと、だんだんとその土地の気候、風土に適應した自分だけの野菜に育っていくのも楽しいです。それがさらに野菜に愛着がわくことにつながっていると思います。

みなさんお待ちしています♪

■岩木山麓しらとり農場

〒036-1343 弘前市百沢字東岩木山428

Tel/fax : 0172-93-2523

メール higashiiwakisan428@cronos.ocn.ne.jp

白取克之・潤子



このコーナーに登場していただける方を募集しています。自薦他薦問いません。メールでご連絡ください。

ネットワーク『地球村』: tusin@chikyumura.org